

令和5年度 中学部研究（中間まとめ）

I 研究テーマ

「生涯にわたって学び、成長しようとする力を高める授業実践」 ～学び、成長しようとする力を支える教科指導の取組～

II 研究テーマ設定の理由

1 学校教育目標・学部教育目標から

本校では学校教育目標として「児童生徒一人一人が個性と能力を発揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活を送る」を掲げており、中学部においても、この目標を中学部という年齢や発達段階に落とし込んだ形で学部の教育目標を定め、日々の教育実践に取り組んでいる。

本校における、今年度からの全体研究テーマは「生涯にわたって学び成長する力を高める授業実践・指導実践」である。これは本校の学校目標にある「（児童生徒が）自立的・主体的な生活」を送るために「今現在の学校生活を充実させながら、現在から卒業後にかけての家庭生活や社会生活を含め、生涯にわたって自立的・主体的な生活を目指す」という趣旨のものであり、これまでの研究活動の成果と課題を踏まえて研究テーマにせまる取組を進めていくことになる。

2 これまでの学部研究から

中学部ではこれまで平成30年度からの3年次研究においては生活単元学習、令和3年度からの2年次研究においては作業学習の授業改善に取り組んできた。この5年間の「各教科等を合わせた指導」の取組の中で、各学年・学級、各作業班での実践を紹介したり、意見交換を行ったりしたことにより、生活単元学習や作業学習の授業実践における様々な成果を共有したり、課題や改善策を見出したりすることができた。また、この取組の中で作成した授業づくりシートの様式には、その単元や学習内容に関連する各教科の目標や内容を記載する欄を設定しており、この様式を使用したことは、授業を構想する段階で「合わせた指導」と「各教科」との関連を意識することや、それらに基づいた目標設定や評価にもつながった。

3 学部の実情から

ここで本校中学部における各教科の指導の現状を考えてみる。知的障がいのある生徒を対象とする支援学校中学部の教科は「国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育及び職業・家庭の各教科、（中略）特に示す場合を除き、全ての生徒に履修させるものとする」¹⁾とされている。本校中学部の通常学級の教育課程には、国語、数学、音楽、保健体育と令和6年度からの新設が決まっている美術を含めると5教科が設定されており、他の教科については「各教科等を合わせた指導」の中で取り扱うこととなっている。このうち、国語、数学については個別～数人のグループによる学習形態、音楽、保健体育については学年毎または複数の学年による一斉指導の形態をとっており、担当者を中心に生徒の実態に合わせた年間指導計画を立案して実践している。教科指導にあた

っては「各教科の目標、段階の目標を踏まえ、児童生徒に対しどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、指導を創意工夫する必要がある」²⁾、また個別の指導計画の作成に当たっては「他の教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間（小学部を除く。）、特別活動及び自立活動との関連、また各教科等を合わせた指導を行う場合との関連を図るとともに、児童生徒が習得したことを適切に評価できるように計画する必要がある」²⁾とされており、これらに基づいた実践を目指しているところではあるが、特に教師が単独で担当することが多い国語、数学においては指導内容が担当者に任されていることや学習グループや担当者が年度毎に変わるケースが多いことなどから、中学部での3年間の中で、学習指導要領に示された教科の内容を取りこぼしなく指導したり、3年間を見通して計画を作成したりすることが難しい現状にある。昨年度の学部反省でもこういった現状に関して不安を感じるといった意見が出されており、学部としてどのように対処していくのが課題となっている。

以上の経緯を考慮し、学部研究では、各教科の指導内容を中学部3年間で取りこぼしなく指導するための手立てや仕組みづくりに取り組みつつ、各教科の目標や内容に基づき、生徒の実態に即した指導内容を精選・組織する実践を行い、「育成を目指す資質・能力」つまり「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」を育むための効果的な指導の手立てやそれによる授業づくりに取り組むことで中学部で設定した研究サブテーマ「学び、成長しようとする力を支える教科指導の取組」にせまりたいと考える。

また、今年度からの全体研究においては、「育成を目指す資質・能力の三つの柱」の一つである「学びに向かう力・人間性」に関わって「主体的に学習に取り組む態度」を「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の二つから（評価を）行うことが求められる。（これらの）側面を意識しながら目標を設定し、評価をすることで主体的に学習に取り組む態度または感性、思いやりが育まれ、研究テーマである『生涯にわたって学び成長しようとする力』の育成につながってくるのではないかとしている。教科の目標と内容に基づき、育成を目指す資質・能力を育むための効果的な指導の手立てやそれによる授業実践の在り方についての研究に取り組むことで、学習指導要領に示された「育成を目指す資質・能力の三つの柱」にせまるとともに、その中の一つである「学びに向かう力・人間性」に関わる「主体的に学習に取り組む態度」を意識した目標設定と評価を行うことで全体研究テーマにもせまりたい。

さらに、「子供たちが、（中略）生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、（中略）我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる」³⁾とあり、このことを意識した授業の在り方の研究にも取り組むことで、全体研究テーマにある「生涯にわたって学び成長しようとする力」につながる「主体的に学習に取り組む態度」の育成を実現する授業づくりを目指していきたい。

なお2年次計画である本研究においては、本校中学部で設定している教科の中から国語と数学を抽出し、1年次の令和5年度は国語、2年次の6年度は数学の授業改善に取り組むこととする。

Ⅲ 研究内容

- 1 学部研究の基本構想と共通理解
- 2 教科学習（国語）の目標や内容の確認と共通理解
- 3 学習指導要領の教科（国語）の目標や内容の網羅を目指した仕組みづくり
- 4 教科版授業づくりシートの作成と活用
- 5 授業実践と PDCA サイクルによる授業改善の取組
- 6 研究のまとめ

Ⅳ 研究計画【表 1】

月	期日、内容	主な内容
4	17 日 学部研①	・令和 5 年度前沢明峰支援学校全体研究計画（案）の概要 ・本次研究の方向性について提案・協議 ・学部研究の内容、計画等について協議、資料を検討
5	25 日 学部研②	・研究計画（案）について協議、資料を検討 ・授業研究会担当者（国語）の検討 ・年間指導計画の作成（教科担当者）
	26 日 全体研究会①	・学部研究について全体に提案
6	23 日 学部研③	・学部研究の推進 ・授業研究会指導案（授業づくりシート）等の検討
	28 日 研究授業	
7	7 日 授業研究会①（中）	・授業研究会における授業提案と協議
	20 日 学部研④	・授業研究会の反省
8	2 日	・高教研講演会
	17 日 学部研⑤	・学部研究の推進 ・授業づくりシートを活用した授業実践、授業改善
9	20 日 学部研⑥	・学部研究の推進 ・授業づくりシートを活用した授業実践①（1 学年 2 実践）、授業改善策についての協議
	12 日 ステップアップⅡ研修講座 （（小）研究授業）	
	21 日 授業研究会②（小）	
10	19 日 学部研⑦	・学部研究の推進 ・授業づくりシートを活用した授業実践②（2 学年 2 実践）、授業改善策についての協議
11	16 日 学部研⑧	・学部研究の推進 ・授業づくりシートを活用した授業実践③（3 学年 2 実践）、授業改善策についての協議
	10 日 学校公開授業研究会 （（高）研究授業）	
	17 日 授業研究会③（高）	

12	21 日 学部研⑨	・学部研究の推進 ・授業づくりシートを活用した授業改善についての協議（学年グループごと）と全体での共有
1	18 日 学部研⑩	・研究のまとめ、全体研究会資料の検討
2	15 日 学部研⑪	・学部研究のまとめ、全体研究会資料の検討 ・2年次の研究内容についての意見交換、方向性の確認
	22 日 全体研究会②	・学部研究のまとめの発表と協議
3	7 日 学部研⑫	・学部研究の反省 ・全体研究会を受け、必要に応じて資料の修正 ・全体研究資料の確認（決裁後 PDF データを HP で公開）

V 研究の実際

1 学部研究の基本構想と共通理解

テーマ設定の理由に基づいて研究の基本構想を立案し、学部研究会において協議を行って共有し、理解を進めた。

2 教科学習（国語）の目標や内容の確認と共通理解

特別支援学校学習指導要領に定める知的障がいである児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科における中学部の国語科の目標と内容について、熊本大学附属特別支援学校の指導内容確認表⁴⁾を基に指導内容の一覧表【図1】を作成し、国語の授業の中で扱う指導内容について共通理解を進めた。

国語 指導内容確認表		中学部	
学年	指導内容	1 段階	2 段階
		内容	内容
(1)	言葉の働き	ア (7) 身近な人々の言葉のよびかけや取りかきを通して、言葉には、事柄の内容を伝える働きや、経験したことを伝える働きがあることを気付くこと。	ア (7) 身近な人々の言葉のよびかけや取りかきを通して、言葉には、考えや感情を伝える働きがあることを気付くこと。
	話し言葉の聞き取り	(1) 発音や声の大きさやリズムに気を付けて聞かせること。	(1) 発音や声の大きさやリズムに気を付けて聞かせること。
	読書	(2) 文章、図表、図解、地図、時刻表の読み取りや書き方を覚えること。	(2) 文章、図表、図解、時刻表、図表などの読み取りや書き方を覚えること。
	文章の書き方	(3) 文章には、意味のある語句のまとまりがあることを理解すること。話し言葉や書き言葉によって意味が異なる語句があることを気付くこと。	(3) 文章には、意味のある語句のまとまりがあることを理解すること。話し言葉や書き言葉によって意味が異なる語句があることを気付くこと。
(2)	文章の読み取り	(4) 主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	(4) 主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。
	文章の書き方	(5) 文章の書き方の違いに気を付けて、丁寧な文章を書くこと。	(5) 文章の書き方の違いに気を付けて、丁寧な文章を書くこと。
	図表の読み取り	(6) 図表の読み取りに気を付けて、丁寧な文章を書くこと。	(6) 図表の読み取りに気を付けて、丁寧な文章を書くこと。
	図表の書き方	(7) 図表の読み取りに気を付けて、丁寧な文章を書くこと。	(7) 図表の読み取りに気を付けて、丁寧な文章を書くこと。
(3)	文章の読み取り	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。
	文章の書き方	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。
	図表の読み取り	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。
	図表の書き方	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。
(4)	文章の読み取り	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。
	文章の書き方	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。
	図表の読み取り	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。
	図表の書き方	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。	イ (7) 事柄の順序や、発音や接続の関係を理解すること。

【図1】国語指導内容一覧表（抜粋）

3 学習指導要領の国語（中学部一段階）の目標や内容の網羅を目指した仕組みづくりの工夫

（1）学習指導要領の目標と内容に関連させた年間指導計画（案）の作成と活用

本校中学部の教科等の年間指導計画は、年度初めその教科等の担当者がそれぞれ作成している。

国語は通常学級の生徒を対象に各学年を生徒の実態に合わせていくつかのグループに分けるなどして実践しているが、これまでそれぞれの担当者が作成してきた指導計画を、今年度は学習指導要領の目標と内容に対応させた学部統一の様式として作成することとした。この年間指導計画の「単元」と「指導内容」は文部科学省の「国語☆☆☆☆」⁵⁾の内容とこれまで作成してきた指導計画の内容を参考にして設定したもので、「教科等の指導：主な学習活動」はそれらの単元や指導内容に対応する学習指導要領の国語（中学部一段階）の内容を、リストから選んで入力（【図2】）できるようにした。この様式で作成した年間指導計画の例を【図3】に示す。

計画			
単元名	指導内容	教科等の指導：主な学習活動	
以下の内容を学習グループごとに、内容や順序を計画的に編成し指導する。			
詩を読もう。① 説明文を読もう。①	・詩の音読 ・説明文の読解 ※国語☆☆☆☆の各単元の内容を基本に、生徒の実態に合わせた教材等を選択し、該当する学習内容に取り組む。	身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。【知識・技能】 ・発音や声の大きさに気を付けて話すこと。【知識・技能】 ・長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。【知識・技能】 ・言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。【知識・技能】 ・主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。【知識・技能】 ・普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。【知識・技能】 ・語のまとまりに気を付けて音読すること。【知識・技能】 ・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。【知識・技能】	
みんなの前で発表しよう。 電話を使って伝えよう。	・簡単な作文 ・相手や場に応じた言葉遣い		

【図2】教科等の指導：主な学習活動の入力の仕方

令和5年度（中学）部 1～3年			国語		
目標			作成者：		
・日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しむことができる。【知識・技能】 ・順序立てて考える力や感じたり想像する力を養い、日常生活や社会生活における非父の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができる。【思考力・判断力・表現力】 ・言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を身につける。【学びに向かう力・人間性】					
計画					
月	時数	単元名	指導内容	教科等の指導：主な学習活動	
以下の内容を学習グループごとに、内容や順序を計画的に編成し指導する。					
4	4	詩を読もう。① 説明文を読もう。①	・詩の音読 ・説明文の読解	・語のまとまりに気を付けて音読すること。【知識・技能】 ・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。【知識・技能】	
5	7	みんなの前で発表しよう。 電話を使って伝えよう。	・簡単な作文 ・相手や場に応じた言葉遣い	・発音や声の大きさに気を付けて話すこと。【知識・技能】 ・普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。【知識・技能】	
6	8	言葉の学習	・言葉の聞き取り ・助詞の使い方 ・同音異義語	・長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。【知識・技能】 ・言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。【知識・技能】	

【図3】国語年間指導計画の例

この年間指導計画の運用にあたっては、実施した単元と指導内容のフォントをゴシック体の太字に変更することで実施記録として残していくこととした【図4】。また、年度当初の計画から、行事や時間割変更等で実施しなかった授業が分かるように、実施しなかった日にちに網掛けをし、備考欄にその理由を記載した【図5】。これらの資料は、次年度の計画の立案の際の参考資料として活用していけるものとする。

月	日	単元名	指導内容	
以下の内容を学習グループごとに、				
4	4	詩を讀もう。① 読解文を讀もう。①	・詩の書誌 ・読解文の読解	・詩の ・事例
5	6	みんなの前で発表しよう。 電話を使って伝えよう。	・簡単な文 ・相手や場に応じた言葉遣い	・発表 ・音読
6	8	言葉の学習	・言葉の読み取り ・知識の使い方 ・同音異義語	・読書 ・音読 ・音読 ・音読
7	6	手紙を書こう① (年中・高学年) 言葉の学習②	・手紙の書き方 (年中・高学年) ・主題、述語 ・件頭の書き	・挨拶 ・主題 ・事例

【図4】 実施記録の例

実施記録（小学部は実施予定日を記載）												
実施日（時間）											備考	
										計		
4月	17	19	24	26							19避難訓練 24視力検査	
	1			1						2		
5月	8	10	18	17	24	29					17運動会練習	
6月	1	1	1		1	1				5		

【図5】 実施しなかった日にちの記載の例

（2）文部科学省の教科書「国語☆☆☆☆」及び解説の活用

ここで、学習指導要領の国語（中学部一段階）の内容を、中学部3年間で網羅するための手立てについて考えてみる。年間指導計画の様式を作成する際に参考にした、「国語☆☆☆☆」は「各学校が編成する教育課程の基準として定められている特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）に示された、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の国語に応じて作成」⁶⁾されているもので、「取り上げた題材と、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の国語の内容に対する教育を行う特別支援学校の国語の内容に示す事項との関連」⁶⁾は【図4】に示したとおりである。

国語☆☆☆☆

単元	知識及び技能											思考力、判断力、表現力等															
	ア							イ	ウ				A聞くこと・話すこと					B書くこと					C読むこと				
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ア)	(ア)	(イ)	(ウ)		(エ)	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ
											①	②															
①の数	3	1	4	2	4	1	1	6	1	1	1	1	7	2	1	1	1	1	2	1	2	4	1	8	4	3	2
詩（たぐひだけ）													○											○			
ペンギン■を異に行こう	○													○													
作品を紹介しよう	○															○											
電話を使って伝えよう						○											○										
言葉のページ（書いてみよう①）			○																			○					
言葉のページ（声に出して読んでみよう）				○																						○	
言葉のページ（言葉の意味、言葉の活用）				○																						○	
日本を旅して													○											○			
本に親しもう													○											○			
江戸小説（お茶屋、しりから入る）													○														○
俳句										○														○			
詩（春の歌、空）													○											○			
色々な標識・表示	○																									○	
水遊びができるまで										○															○		
占字の語					○																				○		
オオカミと羊飼い										○				○													○
ねぼうしたねこ										○				○									○				
作ってみよう			○																						○		
自転車の今昔										○															○		
やらしべ長者							○																○				
手紙を書こう											○								○								
言葉のページ（主語と述語）					○																	○	○				
言葉のページ（書いてみよう②）												○	○									○					
山の家に行って										○								○						○			
簡単に書こう			○		○				○												○		○				
わかりやすくなるように書こう			○																	○			○				
自分の夢を語ろう		○			○									○	○			○									

【図6】「国語☆☆☆☆」の単元と学習指導要領に示す国語（中学部第一段階）の内容との関連

※「国語☆☆☆☆ 国語☆☆☆☆教科書解説」⁶⁾の表をもとに作成したもの

ここから、「国語☆☆☆☆」のそれぞれの単元が、学習指導要領の国語一段階の内容のどの部分と対応するものであるかが分かる。また、学習指導要領の国語一段階の内容の全ての項目が、何れかの単元に対応していることから、「国語☆☆☆☆」の全ての単元を授業の中で適切に扱うことが、学習指導要領の国語一段階の内容を網羅することにつながる可以说。朝日（2022）は「☆本は、学習指導要領や解説を理解するための、先生方にとっての『視覚支援』であり、指導体系を理解するための『学びの地図』である」⁷⁾としており、「国語☆☆☆☆」の活用が本校中学部の課題であった「中学部3年間で必要な学習内容を取りこぼしなく扱うこと」の改善につながると考えた。これらのことから、本研究においては、国語の授業において「国語☆☆☆☆」を中心に扱うことにより、中学部3年間で学習指導要領に示す国語の内容を網羅することを目指した取組を進めることとした。

（3）学習指導要領の教科の内容と「国語☆☆☆☆」の題材との対応表の作成と活用

前述の【図6】は、「国語☆☆☆☆」のそれぞれの単元と学習指導要領に示す国語（中学部一段階）の内容の関連を表す表であるが、これとは逆に学習指導要領に示す国語（中学校第一段階）の内容が「国語☆☆☆☆」のどの単元に該当するのかが一目で分かる対応表【図7】を作成した。

指導内容・「国語☆☆☆」単元対応表

※分類は熊本大学教育学部附属特別支援学校附属特別支援学校の指導内容確認表による（2021）

観点		内容	分類	該当する単元									
知識及び技能	ア	身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	言葉の働き	ペーパー・ペン・ペン（2）	作品を紹介しよう	色んな顔・表情							
		（イ）言葉や声の大きさや強さを付けて話すこと。	話し言葉と書き言葉	自分の夢を話そう									
		（ウ）言葉、顔や、表情、言葉、経験の正しい読み方や書き方を知ることに。	読書	読書のついで（読書のついで）	作ってみよう	順序よく書こう	読書のついで（読書のついで）						
		（エ）言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解することともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。		読書のついで（読書のついで）			読書のついで（読書のついで）						
		（オ）言語と読書の関係や読書の語句の役割を理解すること。		点字の読	読書のついで（読書のついで）	順序よく書こう	読書のついで（読書のついで）	自分の夢を話そう					
		（カ）普通の言葉とは違いはれを付けて、丁寧な言葉を使うこと。	言葉遣い	読書を使って話そう									
		（キ）語のまとまりに気を付けて音読すること。	音読	わらしべ長者									
		イ（ア）季節の順序など、時間と時間との関係について理解すること。	時間と時間との関係	言葉がなくても	オオカミと羊飼	ねばうしたねこ	自動車の今昔	山の家にやって	順序よく書こう				
		（イ）自然や季節の言葉を取り入れた場面などを感じたり、言葉の響きやリズムに楽しむこと。	伝統的な言葉文化	俳句									
		（イ）読書や新聞などに書かれた語句や文を調べる（調べ）たり、季節に合った言葉があることを知ることに。	書き	手紙を書こう									
		（ウ）① 季節や季節の言葉の読み方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。		読書のついで（読書のついで）									
		② 季節の言葉の読み方や読み方、季節や場面などに注意して文字を書くこと。		読書のついで（読書のついで）									
		（エ）読書や新聞、辞書や辞書、自然や季節などの読み方を正しくし、季節や場面などに注意して文字を書くこと。	読書	読書のついで（読書のついで）	日本を話して	本に話してみよう	読書のついで（読書のついで）	詩（春の歌、空）	オオカミと羊飼	ねばうしたねこ			
思考力・判断力・表現力	ア	身近な人の話や経験などから、聞いたことを書き留めたり自分なりのことを聞き取ったりして、話の大意を捉えること。	内容の把握	ペーパー・ペン・ペン（2）	自分の夢を話そう								
		イ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。	内容の検討	自分の夢を話そう									
		ウ 見聞したことを経験したこと、自分の意見などについて、内容の全体がわかるように伝える順序や順序を考えること。	構成の検討	作品を紹介しよう									
		エ 自己紹介や経験の受け答えなど、相手や場面に応じた話のきで話すこと。	表現	読書を使って話そう									
		オ 相手に聞かせるもの、自分へ聞かせるものなど、伝えたいことを伝えること。	話し合い	自分の夢を話そう									
	イ	見聞したことを経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を文やまとめること。	読書のついで（読書のついで）	手紙を書こう	山の家にやって								
		イ 相手に伝えるように事柄の順序によって読書の構成を考えること。	内容の検討（構成の検討）	順序よく書こう									
		ウ 文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。	記述	読書のついで（読書のついで）	読書のついで（読書のついで）								
		エ 自分が書いたものを読み返し、間違いを直すこと。	推敲	読書のついで（読書のついで）	読書のついで（読書のついで）	読書のついで（読書のついで）	読書のついで（読書のついで）						
		オ 文章に対する感想をもち、伝えようこと。	発表	順序よく書こう									
	ウ	読書や文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心算などを想像すること。	構成と内容の把握	読書のついで（読書のついで）	日本を話して	本に話してみよう	俳句	詩（春の歌、空）	ねばうしたねこ	わらしべ長者	山の家にやって		
		イ 語や語句の意味とともに時間的な順序や事柄の順序など内容の全体を捉えること。		手紙がなくても	点字の読	作ってみよう	自動車の今昔						
		ウ 日常生活で必要な語句や文章などを調べる、活用すること。		読書のついで（読書のついで）	読書のついで（読書のついで）	色んな顔・表情							
		エ 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもたせようこと。		オオカミと羊飼									

【図7】学習指導要領に示す国語（中学部第一段階）の内容と「国語☆☆☆」の単元との対応表

※ 表中の分類は熊本大学附属特別支援学校（2020）の指導内容確認表 4）による

ここから、学習指導要領に定める国語（中学部第一段階）の内容が、どの単元に含まれているかが分かり、その単元を適切に扱うことが学習指導要領に定める国語（中学部一段階）の内容を学習したことにつながると思った。文部科学省の教科書解説⁶⁾には「ここでは一般的な取り扱い方を想定して整理しているものである。よって、『国語☆☆☆☆』の使用に当たっては、個々の生徒の実態等に即して、効果的な指導ができるよう創意工夫されたい」とされており、当然ながら実際の授業づくりに当たっては、生徒の実態等に合わせた適切な取り扱いを進めることが必要であり、「国語☆☆☆☆」単元をそのまま活用できる場合もあれば、その単元の教科書や解説の内容を参考に、別の教材を用いて学習内容を組み立てる場合もあることが想定される。（例えば、教科書の本文を対象の生徒が理解しやすい言葉に置き換える等した、いわゆる「リライト教材」^{※1}や「国語☆☆☆☆」の中の物語文の学習で扱う内容を、他の絵本などを用いて扱った場合などがこれに当たる。）

※1 リライト教材：もともとは日本語以外の言語を母語とする外国人の子供たちに対して、教科書本文をその子供の日本語力に対応させて書き換えた教材のことで、特別な支援の必要な子供に対して、国語科等の学習で使っている文章を、子供が理解しやすいように平易な言葉に書き換えた教材のこと。

「国語☆☆☆☆」の各単元、またはその単元の内容を生徒の実態等に合わせた別の教材を用いて実施した場合、【図8】のように実施した単元等の欄とそれに対応する指導内容のセルに色を付けて記録していくこととした。学年が変わり、授業の担当者が代わった場合でも、この表を引き継いでいくことにより、本研究の目的の一つである学習指導要領に定める教科の内容を中学部3年間で網羅して取り扱うことができると思われる。

指導内容・「国語☆☆☆☆」単元対応表			実施記録（11月1日）		
観点	内容	分類			
ア	(イ) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	話し言葉と書き言葉	ベン・ベンショーを見よう	作品を紹介しよう	色々な標記
	(イ) 発音や声の大きさに気を付けて話すこと。		自分の夢を語ろう		
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	読書	言葉のページ（書いてみよう）	作ってみよう	順序よく
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方に		言葉のページ（読んでみよう）	言葉のページ（書いてみよう）	

【図8】指導内容・単元対応表の記載の例（単元Aに取り組んだ場合、指導内容Bのセルにも色を付ける）

4 教科版授業づくりシートの作成と活用

昨年度までの学部研究の中で作成してきた授業づくりシートの教科版を作成した。教科版の授業づくりシートは以下の3種類のシートで構成されている。

- ① 単元計画シート【図9】
- ② 授業記録シート【図10】
- ③ 授業改善の記録シート【図11】

令和5年度 教科版授業づくりシート① 単元計画シート					
教科名	国語	授業時	第1時	第2時	第3時
単元指導要領の教科版記載（中学部・11年度）					
知識・技能	国語生活や社会生活に必要な知識・技能について、その内容を理解し活用することができるようにする。				
思考力・判断力・表現力	国語生活や社会生活における人との関わりの中で自ら考え、思考力や判断力を高める。				
学びに向かう力・人間性	国語生活や社会生活において、国語を大切にし、国語生活の向上を図る態度を養う。				
単元名	国語	年	第1年	第2年	第3年
知識・技能	国語生活や社会生活に必要な知識・技能について、その内容を理解し活用することができるようにする。	思考力・判断力・表現力	国語生活や社会生活における人との関わりの中で自ら考え、思考力や判断力を高める。	学びに向かう力・人間性	
単元の目標	国語生活や社会生活に必要な知識・技能について、その内容を理解し活用することができるようにする。	思考力・判断力・表現力	国語生活や社会生活における人との関わりの中で自ら考え、思考力や判断力を高める。	学びに向かう力・人間性	
授業の計画	国語生活や社会生活に必要な知識・技能について、その内容を理解し活用することができるようにする。	思考力・判断力・表現力	国語生活や社会生活における人との関わりの中で自ら考え、思考力や判断力を高める。	学びに向かう力・人間性	
評価の項目	国語生活や社会生活に必要な知識・技能について、その内容を理解し活用することができるようにする。	思考力・判断力・表現力	国語生活や社会生活における人との関わりの中で自ら考え、思考力や判断力を高める。	学びに向かう力・人間性	
評価	国語生活や社会生活に必要な知識・技能について、その内容を理解し活用することができるようにする。	思考力・判断力・表現力	国語生活や社会生活における人との関わりの中で自ら考え、思考力や判断力を高める。	学びに向かう力・人間性	

【図9】教科版授業づくりシート① 単元計画シート

令和5年度 教科版授業づくりシート② 授業記録シート

対象	部	年	名	花巻市
教科名	松川地区	曜日	月	日
単元名		時	分	秒

本時の活動	学習内容・学習活動	学習上の留意点（学習意欲）	備考（教材・教員など）
時間			

本時の評価		学習の様子	成果（O、□、△）と課題（●）
本時の目標	評価の観点		
知識・技能	知識・技能		
思考力・判断力・表現力	思考力・判断力・表現力		
学びに向かう力・人間性	学びに向かう力・人間性		
その他	その他		

※ 評価には本時の活動に合わせた評価を行う。O：目標達成、□：目標達成が期待できず、△：目標達成が期待できず、●：目標達成が期待できず。
○：学習意欲・学習態度が向上したとき、□：学習意欲・学習態度が向上したとき、△：学習意欲・学習態度が向上したとき

【図 10】教科版授業づくりシート② 授業記録シート

令和5年度 教科版授業づくりシート③ 授業改善の記録

(1) 実施した授業改善

対象	部	年	名	指導者
教科名	使用教材	曜日	月	日
単元名		時	分	秒

(2) 課題とその改善の取組

課題	改善案	評価
	【学習意欲・学習態度が向上したとき】	
	【学習意欲・学習態度が向上したとき】	
	【学習意欲・学習態度が向上したとき】	
	【学習意欲・学習態度が向上したとき】	

【図 11】教科版授業づくりシート③ 授業改善の記録シート

（１）学習指導要領の教科の目標と内容に基づく単元計画の立案

今年度の学部研究の中で作成した単元計画シートには、様式の上段に、学習指導要領に定める教科（国語中学部一段階）の目標を記載した（【図 12】）。また、解説には「国語☆☆☆☆」のそれぞれの題材に「本題材に関連する、学習指導要領の主な内容」が記載されていることから、単元計画シートにも「単元に該当する学習指導要領の内容」欄を設け、リストの中から内容を選択できるようにした（【図 13】）。

またこれらの欄の下に「生徒の実態」等を記入する欄を作ったことにより、「学習指導要領の目標」→「題材に該当する学習指導要領の主な内容」→「（その内容に関する）生徒の実態」→「（生徒の実態を受けての）単元の目標」→「（目標を達成するための）支援の手立て」といった一連の流れを、一枚のシート上にまとめて記載することができるようにした（【図 14】）。

令和5年度 教科版授業づくりシート① 単元計画シート

教科名	授業日
学習指導要領の教科の目標（中学部 1段階）	
知識・技能	日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるよう
思考力・判断力・表現力	日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を高め
学びに向かう力・人間性	言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図
単元名	使用教材

【図 12】単元計画シートの「学習指導要領の教科の目標」記載欄

	知識・技能	思
単元に該当する学習指導要領の内容	- 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容・発音や声の大きさに気を付けて話すこと。【知識・技能】 - 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知る	
生徒の実態	- 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。【知識・技能】 - 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。【知識・技能】 - 語のまとまりに気を付けて音読すること。【知識・技能】	

【図 13】単元に該当する学習指導要領の内容をリストから選択

教科名	国語	授業日	
学習指導要領			
知識・技能	日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるよう		
思考力・判断力・表現力	日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を高め		
学びに向かう力・人間性	言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図		
単元名	ペンギンショーを見に行こう		
対象	中学	部	1 年 3 名
知識・技能			
単元に該当する学習指導要領の内容	- 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容・発音や声の大きさに気を付けて話すこと。【知識・技能】 - 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知る		
生徒の実態	平仮名、片仮名の読み書きが大体できる生徒が中心の学習グループである。		
単元の目標	教科書を音読したり、友達の音読に注意を向けて聞いたりすることができる。		
支援の手立て	音読の際は自分や友達がどこを読んでいるか確認できるように、指でなぞりながら読む（聞く）よう促す。【コト】		

学習指導要領に定める教科（国語一段階）の目標

題材に関連する学習指導要領の主な内容

内容に関連する生徒の実態

生徒の実態を踏まえた単元の目標

目標に迫るための支援の手立て

【図 14】学習指導要領の目標から支援の手立ての設定までの一連の流れ

（２）観点別の目標設定と評価

【図 9】 単元計画シート、【図 10】 授業記録シートにおいては、目標や支援の手立てを「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」、評価の観点を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」の、それぞれ三つの観点で設定できるようにした。また、昨年度までの研究で取り組んできた内容を継承し、支援の手立てについては、【ヒト】【モノ】【コト】に分類して整理できるようにそれぞれ記載し、評価については「○：自主的・自立的に行動したとき」、「□：注意喚起を要したとき」、「△：行動の指示を要したとき」の記号を付した。（【図 15】）

本時の評価			
本時の目標	評価の観点	支援の手立て	成果（○、□、△）と課題（●）
知識・技能 教科書を青読したり、友達の音読に注意を向けて聞いたりすることができる。	知識・技能 自分や友達が読んでいるところを指でなぞりながら読む（聞く）ことができる。	・音読の際は自分や友達がどこを読んでいるか確認できるよう、指でなぞりながら読む（聞く）よう促す。【ヒト】 ・基本的に教科書を使用するが、必要に応じて教科書と同じ内容のプリント等を使用する。【モノ】	・自分や友達と読んでいるところを指でなぞりながら読んだ。聞いたりする音読が声についていた。【○】 ・一文字ずつ順番に音読する際、どこを読んでいるか見あうときがあり、声掛けを要する場面があった。【□△】また、音読の途中で、教科書を開くことができなかった場面があった。【●】
思考力・判断力・表現力 ペンギンショーが「たのしい」「どこまで」行われるかが分かった。口帳で覚えたり、扉内図から進めたりすることができる。	思考力・判断力・表現力 「何時間から」「何グループで？」等のシートに書いて時間や進め方を覚えることができる。扉内図を見て進め方を覚える。○で進めたりすることができる。	・例の実態に応じた回答の仕方ができるよう、視覚教材を準備したり、進め方を提示したりする。【コト】	・ペンギンショーが「何時間から」「何グループで？」行われるかが分かった。口帳で覚えたり、扉内図から進めたりすることができる。【○】 ・自分で書くことが難しい生徒が、自分から書道集等を借りて進め方を覚えることができた。教師が書いた進め方を元に扉内図の記入ができた。【○】 ・ワークシートの確認に当たった。必要十分な回答を記入することが難しい生徒があった。【●】
学びに向かう力・人間性 学習の場の中で、指導アイルを覚える。教科書や備忘録表を準備する等が自動的にできる。	主体性 学習の準備が自動的にできたり、教師の聲しに沿ってスムーズに行動したりすることができる。	・学習に集中できるよう、不要な視覚刺激を避ける。【モノ】 ・良い姿勢で学習に取り組めるよう、椅子や机を適切な高さに調整する。【モノ】	・指導アイルの模範が自動的にできた。【○】 ・教師の声掛けにより、学習開始時に必要なものを机の上に準備することができるようになったが、【○△】 ・授業中に、その準備で目線が離れず書き込みが滞り、指導を必要以上に要した場面があった。【○△】 ・授業中に、その準備で目線が離れず書き込みが滞り、指導を必要以上に要した場面があった。【○△】
その他	その他		・教師の声掛けにより、場面に正して学習に取り組むことができた。【○】 ・後半の活動の場面に切り替わる際、課題を終えるまでの時間に余裕があったため待機時間があった。【○●】

※ 評価における成果の記載については以下の記号を使用する。
○：自主的・自立的に行動したとき、□：注意喚起を要したとき、△：行動の指示を要したとき

【図 15】 支援の手立て、評価の観点等の記載の例

5 授業実践と PDCA サイクルによる授業改善の取組

（１）中学部提案の授業研究会の取組

本校では例年各学部 1 回の提案授業による授業研究会を実施している。中学部では、学部研究での各自の授業実践に先立ち、第 1 回授業研究会に今年度からの学部研究テーマに基づき、国語を提案授業として設定した。

提案授業の概要を【表 2】に示す。

【表 2】 第 1 回授業研究会提案授業の概要（中学部 1 年 1 グループ国語）

単元名	「ペンギンショーを見に行こう」（国語☆☆☆☆文部科学省）
対 象	中学部 1 年国語 1 グループ（生徒 3 名）
授業者	大渡一弘

提案授業では資料として、以下の①を配付した。

- ・授業づくりシート①単元計画シート 【図 16】、授業記録シート②授業記録シート 【図 17】

令和5年度 教科版授業づくりシート① 単元計画シート

教科名	国語	授業日	6/1, 5, 8, 22, 26, 28, 7/3	計	7	時間計画
学習指導要領の教科の目標（中学部 1段階）						
知識・技能	日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。					
思考力・判断力・表現力	日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を高める。					
学びに向かう力・人間性	言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。					
単元名	ペンギンショーを見に行こう			使用教材	国語☆☆☆☆ P8～11	
対象	中学	部	1	年	3	名
				指導者	大渡 一弘	
	知識・技能		思考力・判断力・表現力		学びに向かう力・人間性	
単元に該当する学習指導要領の内容	・身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事柄の内容を表す働きや、延べたことを伝える働きがあることに気付くこと。【知識・技能】		・身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分らないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。【思考力・判断力・表現力】			
生徒の実態	・平仮名、片仮名の読み書きが大体できる生徒が中心の学習グループである。		・簡単な口頭による指示を理解して行動できる。 ・分からないとき、困ったとき等に意思表示ができる。		・集中力が途切れやすく、学習にじっくり取り組むことが難しい場合が多い。	
単元の目標	・教科書を音読したり、友達の音読に注意を向けて聞いたりすることができる。		・教科書の内容を読んだり、聞いたりして、大体の内容が分かる。 ・教科書の内容について「いつ」「どこ」等の簡単な質問に答えられることができる。		・学習の流れの中で、宿題ファイルを作成する、教科書や筆記用具を準備する等が自発的にできる。	
支援の手立て	・音読の際は自分や友達がどこを読んでいるか確認できるよう、指でなぞりながら読む（聞く）よう促す。		・個の実態に応じた回答の仕方ができるよう、視覚教材を準備したり、選択肢を提示したりする。		・学習に集中できるように不要な視覚刺激を避ける。 ・良い姿勢で学習に取り組めるように椅子や机を適切な高さに調整する。	
	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性	
評価の観点	・自分や友達が読んでいるところを指でなぞりながら読む（聞く）ことができたか。		・教科書の内容についての簡単な質問に答えたり、選択肢から選んだり、分からないときに意思表示をしたりすることができたか。		・学習の準備が自発的にできたり、教師の促しに沿ってスムーズに行動したりすることができたか。	
評価						

※ 評価における成果の記載については以下の記号を使用する。

○：自主的・自立的に行動したとき、□：注意喚起を要したとき、△：行動の指示を要したとき

【図 16】授業づくりシート①単元計画シート

令和5年度 教科版授業づくりシート② 授業記録シート

対象	中学	部	1	年	3	名	指導者	大渡 一弘	
教科名	国語		使用教材	国語☆☆☆☆ P8～11		期日	6月28日	水曜日	2校時
単元名	ペンギンショーを見に行こう								
本時の活動									
時間	学習内容・学習活動				指導上の留意点（手立て）			備考（教材・教具など）	
9:40	1	あいさつ			・個々の学習の準備ができたら、当番が前に出て挨拶をするよう促す。			・教科書「国語☆☆☆☆」 ・TV、タブレットPC ・筆記教具、ノート ・宿題プリント、ファイル	
9:42	2	教科書を読もう。			・自分や友達どこを読んでいるか確認できるよう、指でなぞりながら読む（聞く）よう促す。				
10:00	3	水族館の動画を観よう。			・教科書の内容についての簡単な質問に答えられるよう、生徒の実態合わせた視覚教材や選択肢を準備する。				
10:05	4	ていねいに書こう。			・良い姿勢で書くことができるよう、視覚教材を活用したり、具体的な声がけをししたりする。				
10:12	5	宿題の確認をしよう。			・宿題に意欲的に取り組むことができるよう、肯定的な声がけをする。				
10:20	6	あいさつ			・当番が自分で気付いて前に出ることができるよう、当番表に注目させる。				
本時の評価									
本時の目標		評価の観点		支援の手立て			成果（○、□、△）と課題（●）		
知識・技能		知識・技能		・音読の際は自分や友達どこを読んでいるか確認できるよう、指でなぞりながら読む（聞く）よう促す。 ・基本的に教科書を使用するが、必要に応じ教科書と同じ内容のプリント等を使用する。					
・教科書を音読したり、友達の音読に注意を向けて聞いたりすることができる。		自分や友達読んでいるところを指でなぞりながら読む（聞く）ことができたか。							
思考力・判断力・表現力		思考力・判断力・表現力		・個の実態に応じた回答の仕方ができるよう、視覚教材を準備したり、選択肢を提示したりする。					
・ペンギンショーが「いつ」「どこで」行われるかわからず、口頭で聞いたり、絵内図から読み取ることができる。		・「何時から？」「何ページまで？」等のヒントに基いて読解や整理をすることができたり、絵内図を見て読解を助したり、□で読んだりすることができたか。							
学びに向かう力・人間性		主体性		・学習に集中できるよう、不要な視覚刺激を避ける。 ・良い姿勢で学習に取り組めるよう、椅子や机を適切な高さに調整する。					
・学習の流れの中で、宿題ファイルを作成する、教科書や筆記用具を準備する等が自発的にできる。		・学習の準備が自発的にできたり、教師の促しに沿ってスムーズに行動したりすることができたか。							
その他		その他							

※ 評価における成果の記載については以下の記号を使用する。

○：自主的・自立的に行動したとき、□：注意喚起を要したとき、△：行動の指示を要したとき

【図 17】授業づくりシート②授業記録シート

① 授業研究会のグループ協議において作成したワークシートの記述から

授業研究会はワークショップ形式で行い、参加者 35 名が 5 つのグループに分かれて、授業の成果と課題・改善策について意見交換を行い、ワークシートを作成した。各グループで作成したワークシートには「成果」と「課題及び改善策」あわせて 106 枚の付箋による記述が得られた。そのうち、「成果」については、ワークシートの記述からテキストマイニングによるキーワードの抽出とそれらの関係性を図式化した共起ネットワーク図の作成から得られた成果について、協議の柱ごとに下記に示す。

協議の柱 1 〈学ぶ意欲を引き出す学習内容の設定や指導・支援の手立てについて〉

- A 見る、聞く、読む、書く、の 4 つの短い活動で構成されていたこと。文を指でなぞる、順番読みなど、読む力をつける手立てがあった。
- B 個に合わせた課題（プリント）を作成していた。
- C 教科書を使用して指導することを通して、系統的な学習ができた。
- D 生徒同士のやりとりがあった、生徒に役割があった。
- E 映像の視聴でイメージ化しやすくし、興味関心を高めた。

協議の柱 2 〈生徒が落ち着いて学習に取り組むための環境設定と学習規律について〉

- A 学習に集中できる教室環境づくり（棚をカーテンで目隠しする）、机上整理をしていた。
- B 正しい姿勢（両足を床につける）の提示、確認をした。
- C 授業内容をホワイトボードに提示し、授業の見通しをもちやすくした。授業の始まり方がルーティン化されていて分かりやすかった。

なお、「課題・改善策」については記述数が少ないため、テキストマイニングは行わなかったものの、今後の授業改善につながるアイデアが多かった。授業研究会で出された意見を参考に改善策に取り組んだ。その詳細を【図 18】に示す。

令和5年度 教科版授業づくりシート③ 授業改善の記録

(1)実施した提案授業

対象	中学	部	1	年	3	名	指導者	大渡 一弘
教科名	国語	使用教材	国語☆☆☆☆	P8～11	期日	6月28日	水曜日	2校時
単元名	ペンギンショーを見に行こう							

(2)課題とその後の取組 ※ 評価のゴシック太字は【研究会で出された改善策】に関わる内容

課題	改善策	評価
・一文ずつ順番に音読する際、どこを読んでいるか見失うときがあり、声がけを要する場面があった。(□△)また、音読の途中で、教科書を指でなぞることができなくなる生徒がいた。(●)	・その都度声がけをしながら継続して取り組む。 【研究会で出された改善策】 ・集中力が続かない生徒がいるときは一文ずつ順番に読むのも良い。	・必要に応じ声がけを行うなどして繰り返し取り組む中で、自分から教科書の本文を指でなぞりながら読んだり聞いたりすることができるようになってきた。(○) ・一人一文ずつ順番に読む取り組みでは、友達を読む順番の時に、一緒に声を出して読んでもらう生徒もいるが、現時点では意図的に取り組んでいる結果として肯定的に捉えている。(○)
・ワークシートの様式に合わせた、必要十分な回答を記入することが難しい生徒がいた。(●)	・ワークシートに取り組む前に、口頭による指示に加えて、回答の仕方や解答例等を視覚教材で提示する。 ・より適切な答え方を例示する。 【研究会で出された改善策】 ・プリントを大きくする。 ・(ワークシートや視写ノート等)自分の書いたものだけでなく友達の書いたものを見合う機会をつくるのも良い。	・単元「神間の言葉」では、ホワイトボードに掲示した拡大ワークシートにイラストを貼る活動を、教師が例示したり、生徒が実際に貼ってみたいする等、適切な回答の練習をした上で、個別の課題に取り組んだ。生徒によりイラストを貼るだけでなく、空白に名称を書き込む活動も取り入れた。友達との芸術学習に意欲的に取り組み、仲間分けをすることができた。(○) ・単元「本にしたしもう」では図書コーナーで好きな本を選び、紹介カードを作って友達に発表する活動に意図的に取り組むことができた。(○)
教師の声がけにより、学習開始時に必要なものを机の上に準備することができるようになったが、「〇〇を出して」という具体的な指示を要する場面も多かった。(□△) ・授業中に、その場面では使用しない筆入れを机に出したり、鉛筆を名前ペンに取り替えたりする様子が見られた。(●)	・学習開始時には机の上に教科書のみ出しておくこととし、鉛筆などは使うときに机の中から出すという方式に変更する。 【研究会で出された改善策】 ・ペンの置き場所設定や使わないときには机の中に入れておく必要がある。	・学習開始時には声がけにより教科書のみを机に出すことができる(□)授業中に、その場では使わない鉛筆や消しゴムを出してしまう生徒もいるが、声がけによりすぐに片づけたり、磨ったりする様子が見られるようになった。(□)全体的には約束を守って学習に取り組むことができていた。(○)
視写等の個別の課題に取り組む際、課題を終えるまでの時間に差があったため待ち時間が生じた。(●)	・課題量を調整する。時間がかかることが予想される生徒に先に課題を渡す。	・適切な課題量を設定することで、個々の生徒が課題を終えるまでの時間の差が少なくなった。(○) ・個別の課題に積極的に取り組むことができる生徒たちであることから、予備として準備した短時間で取り組むことができる課題を追加することで時間を調整することができた。(○)

【図18】授業づくりシート③授業改善の記録

さらに、岩手大学大学院 佐々木 全准教授からいただいた指導助言から学部研究会で話し合った今後の研究の方針・方法を以下に示す。

(指導助言の主な内容)

- ・全体研究テーマ「生涯にわたって学び、成長しようとする力」をどのようにして育むかを明確にすること。

(研究方針・方法)

- ①教科版授業づくりシートを活用し、「生涯にわたって学び、成長しようとする力」を支える資質・能力の三つの柱にせまる授業づくりについて研究する。
- ②①と共に「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりに取り組み、「生涯にわたって学び、成長する力」につながる主体的に学びに向かう力の育成を目指す。

(2)各学年2実践の実践発表および協議(9～12月学部研究会)

各学年から通常学級1実践、重複学級1実践、国語の授業実践に取り組み、学部研究会で提案を行った。(重複学級(類型A1とB)には教科の設定がないため、自立活動の授業の中で国語的な内容を扱った。)

各学年・各グループの実践については【表2】のとおりである。

通常学級では国語の教科指導の中で、重複学級では自立活動の指導の時間において実践を行った。

【表 2】令和 5 年度の実践一覧

学年・グループ	単元名	教科・領域名
1 年国語 2 グループ	「いろいろな文を読もう（いろいろな標識・表示）」	国語
1 年国語 4 グループ	「人や物の名前を覚えよう」	自立活動
2 年国語 1 グループ	「日本を旅して」	国語
2 年国語 3 グループ	「言葉に触れ、言葉の良さを感受しよう」	自立活動
3 年国語 1 グループ	「順序よく書こう」	国語
3 年国語 2 グループ	「身近な人や食べ物を知ろう」	自立活動

次に、学部研究会での授業実践と協議、授業改善の取組の流れについて示す。

①授業の提案（1 件 10 分程度）

- ・授業づくりシート（単元計画シート、授業記録シート）に沿った授業者からの説明。
- ・授業の動画を視聴。

②授業者から出された課題を中心に改善策について参加者全員で協議（15 分程度）

- ・協議する項目は、①単元、授業の組み立てについて②資質・能力を育む目標、手立て、評価について（「学びに向かう力・人間性」については、粘り強さを引き出す手立ての工夫、学習の調整を引き出す手立ての工夫についてを含む）③主体的な学びを引き出す授業づくり、手立ての工夫、対話的（協働的）な学びを引き出す手立ての工夫、学びが深まる単元計画について。

③学部研究会後、追加意見を「追加意見」の用紙に記入、提出。研究部でまとめたものを配布、共有。

④意見を受けて、授業改善に取り組む。（授業づくりシート③授業改善の記録の作成）→①学部研究会にて学年グループごとに協議。②協議した内容を全体で共有。

（3）「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践の取組

研究テーマ設定の理由で記述した「主体的・対話的で深い学び」について学部研究会の中で新井英靖氏の著書を読み、共通理解を図った。以下にそのキーワード表⁸⁾について示す。

【表 3】「主体的、対話的で深い学び」キーワード

主体的な学び	学ぶことの興味や関心／自己のキャリア形成との関連付け、粘り強い取り組み／学習活動の振り返り、次につなげる学び
対話的な学び	子供同士の協議／教師や地域の人との対話／先哲の考え方をもとに考える
深い学び	習得・活用・探求という学びの過程／知識を相互に関連付ける／情報の精査と考えの形成、思いや考えを基に想像する

また、ここからは特に「学ぶことの興味や関心」「子ども同士の協議や対話（関わり）」の視点から主体的・対話的（協働的）で深い学びを意識した授業実践（通常学級国語グループから 1 実践、重複学級自立活動グループから 1 実践）を取り上げ、具体的な実践の内容や授業改善の取組および生徒の変容の様子について示す。

①実践例１ １年国語２グループ 「いろいろな文を読もう（いろいろな標識・表示）」

ア 授業実践の概要（対象生徒４名）

一斉授業の形式で国語の学習をしている。標識の絵や記号の読み取りに生徒たちが興味をもち、楽しんで取り組めるようクイズ形式や校内にある標識を探索する活動を組み込んで授業が構成された。

令和５年度 教科版授業づくりシート① 単元計画シート（試案）

教科名	国語	授業日	8/30、9/4、9/5、9/11	計	4	時間計画	
学習指導要領の教科の目標（中学部 1段階）							
知識・技能	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。						
思考力・判断力・表現力	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。						
学びに向かう力・人間性	言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。						
単元名	いろいろな文を読もう（いろいろな標識・表示）			使用教材	教科書、タブレット、ワークシート		
対象	中学	部	1	年	4	名	指導者 高橋 加奈恵
	知識・技能		思考力・判断力・表現力		学びに向かう力・人間性		
単元に該当する学習指導要領の内容	・身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。【知識・技能】		・日常生活で必要な語句や文章などを読み、行動すること。【思考力・判断力・表現力】				
生徒の実態	・平仮名、片仮名の読みが大体できる。 ・補助があれば丁寧に字を書くことができる。		・口頭による指示を理解して行動できる。 ・口頭で見たこと、聞いたことを説明できる。		・話すことが得意だが、人の話を最後まで聞くことが難しい場合が多い。 ・授業とは関係のない話しが多い。		
単元の目標	・標識やマークを見て、正しく読むことができる。		・標識等に表されている文字や記号、絵は何を表しているか読み取ることができる。		・学習の流れの中で、教師や友達の話しを最後まで聞くことができる。		
支援の手立て	・集中して考えられるように、環境の調整（カーテンを閉める）をし、不要な視覚刺激を避ける。【モノ】		・楽しんで学べるよう、クイズ形式で取り組むようにする。【コト】		・学習に集中できるよう、学習のルールについて確認する。【ヒト】 ・集中して話しを聞くことができるよう、話しを聞く姿勢についてモデルを示す。【ヒト】		
	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性		
評価の観点	・標識やマークを見て、正しく読むことができる。		・標識等に表されている文字や記号、絵は何を表しているか読み取ることができる。		・活動の準備が自発的にできたり、教師の促しに沿ってスムーズに行動することができたか。		
評価	・標識やマークのクイズには、毎時間意欲的に取り組むことができた。 (○) ・絵や文字を見て何のマークか予想したり、正しく理解することができた。 (○)		・教科書に書いてある説明文を読んだり、ワークシートの説明文を読んで読み取ったり、クイズ形式でマークや絵を見て予想したり、考えることができた。 (○)		・ワークシートに取り組むときや校内にあるマークや表示を探しに行くときにすぐに取り組むことができた。身近なものに取り組むことで意欲的に取り組んだ。 (○)		

※ 評価における成果の記載については以下の記号を使用する。
○：自主的・自立的に行動したとき、□：注意喚起を要したとき、△：行動の指示を要したとき

【図 19】授業づくりシート①単元計画シート

令和5年度 教科版授業づくりシート② 授業記録シート（試案） 20230607大渡作成

対象	中学	部	1	年	4	名	指導者	高橋 加奈恵
教科名	国語		使用教材	教科書、タブレット、ワークシート			期日	9月11日 月曜日
単元名	いろいろな文を読もう（いろいろな標識・表示）							

本時の活動								
時間	学習内容・学習活動			指導上の留意点（手立て）				備考（教材・教員など）
9:40	1	あいさつ		正しい姿勢で挨拶するよう、教師が正しい姿勢のモデルを示す。【ヒト】				・教科書「国語☆☆☆☆」 ・筆記用具、ワークシート ・タブレット ・TV
9:42	2	TVに注目しマーク・表示・標識クイズをする。		マークや表示に注目できるよう、TVを活用する。【モノ】 実生活の中で実際の表示にも注目できるよう、教科書に載っている以外のマーク・表示・標識の学習を設定する。【コト】				
9:50	3	マーク・表示・標識のワークシートに取り組む。						
9:55	4	マーク・表示・標識の説明文を読む。		読みやすいよう、単語に分ち書きしたプリントを用いる。【モノ】				
10:15	5	校内のマーク・表示・標識を探す。		マークや表示の理解が深まるよう、実生活の中で見かける表示を探す活動を設定する。【コト】				
10:20	6	あいさつ		正しい姿勢で挨拶するよう、視覚教材を活用する。【ヒト】				

本時の評価				
本時の目標	評価の観点	支援の手立て	成果（○、□、△）と課題（●）	
知識・技能 ・標識等に表されている文字や記号、絵は何を表しているか読み取ることができる。	知識・技能 ・身近な標識やマークと意味を結びつけることができる。	・基本は教科書を使用するが、必要に応じ身近なマーク等を示したワークシートを活用する。【モノ】 ・内容に集中できるよう、線で絵に簡単なワークシートを用意する。【モノ】	・標識やマークのクイズでは、手を挙げて応えた。休講の悪い生徒は、ジェスチャーで応えることができた。（○） ・書く、読むの活動が少なかった。（●）	
思考力・判断力・表現力 ・校内にある身の回りの標識やマークを探すことができる。どこにあるか予想することができる。	思考力・判断力・表現力 ・校内にある身の回りの標識やマークを探すことができる。どこにあるか予想することができる。	・興味をもって取り組めるよう、視覚教材等を準備する。【モノ】 ・楽しんで学べるよう、クイズ形式で取り組むようにする。【コト】	・ワークシートで示した校内にあるマークを探すことができる。（○） ・気持ちが学習に向かない生徒は、参加が難しかった。（△）	
学びに向かう力・人間性 ・活動の準備が自発的にできたり、教師の促しに沿ってスムーズに行動しようとする。	主体性 ・活動の準備が自発的にできたり、教師の促しに沿ってスムーズに行動することができる。	・学習に集中できるようカーテンを開き、小さな視覚刺激を避ける。【モノ】 ・学習に集中できるよう、学習のルールについて学期で確認してから集まって学習する。【ヒト】	・ワークシートに取り組むときや校内にあるマークや表示を探しに行くときにすぐに取り組むことができた。（○） ・授業以外のことを話すなど集中する時間が短い。（●）	
その他	その他			

※ 評価における成果の記載については以下の記号を使用する。

○：自主的・自立的に行動したとき、□：注意喚起を要したとき、△：行動の指示を要したとき

【図 20】授業づくりシート②授業記録シート

イ 学部研究会での協議・追加意見の内容

（成果）

（主体的な学びを引き出す手立ての工夫）

- ・標識、マークは誰にとっても分かりやすく、視覚教材、ワークシートの活用により、興味がわき意欲的に取り組める内容。校内を歩く調べ学習もあり、生徒たちは積極的に取り組んでいた。実生活にもつながる。校外での活動も含め、発展していける内容。

（対話的（協働的）な学びを引き出す手立ての工夫）

- ・マークについてのクイズでは、生徒同士が相談しながら答えを見つけていた。教師も待ってあげていたところが良い。

（授業者から出された課題）

- 書く活動が少ない。学習に集中して取り組む時間が短い。
- 文字や文を読めない生徒がおり、読む学習の取組ませ方に悩む。

（学部研究会・追加意見で提案された改善策）

- 内容により学習に取り組めない課題については、一斉に同じ活動に取り組まない方法もある。時間を区切って個々の課題に取り組む時間を作ってはどうか。
- 教材等を工夫・活用し、文字や文を読む学習に取り組む。（未実施）

ウ 授業改善の内容と評価（生徒の変容の様子）、協議の結果（今後の方向性）

- 書く活動を個別の課題学習として授業の流れの中に入れ、①プリント学習（個別学習）②教科書の学習（一斉）③お楽しみ学習（カード等活用）（一斉）に変更したところ、授業

にメリハリが出て集中できる時間が増えた。また、授業の始めの10分間の個々の課題学習（プリント）には毎回静かに取り組んでいる。→◎今後も改善策に継続して取り組む。

b◎今後も、生徒の特性に合わせ、フラッシュカード文を分かち書きするなど教材を工夫・留意して読む学習に取り組む。（未実施）

③実践例2 2年自立活動グループ

ア 授業実践の概要（対象生徒5名）

2年生重複学級2クラス合同での自立活動の学習。個別の課題に取り組む時間とは別に週1回1時間程度時間を設定。集団で関わり合いながら自己表現やコミュニケーションの幅を広げ、力を高めていくことを目指す。本単元では、文字の形や音に繰り返し触れる学習（読み聞かせ、文字の動画視聴、文字のマッチング）に取り組む。

令和5年度 教科版授業づくりシート① 単元計画シート（試案）

教科名	自立活動			授業日	9月～	計	時間計画
学習指導要領の教科の目標							
知識・技能	日常生活や社会生活に必要な言葉を身に付け、使うことができるようにする。（小2段階）						
思考力・判断力・表現力	日常生活や社会生活における人との関わりの中で、言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたり、自分の思いを伝えることができるようにする。（小2段階）						
学びに向かう力・人間性	言葉で表すことや言葉がもつ良さを楽しみを感じ、言葉でのやりとりや伝えようとする態度を養う。（小1～2段階）						
単元名	言葉に触れ、言葉の良さを感じよう					使用教材	絵本、TV、プリント等
対象	中学	部	2	年	5	名	指導者 松倉沙織、菅原夕貴、千葉江美子、永山由香
	知識・技能		思考力・判断力・表現力		学びに向かう力・人間性		
単元に該当する学習指導要領の内容	・読み聞かせや映像に親しんだり、文字を拾い読みしたりして、ひらがなやいろいろな言葉に興味をもつこと。【知識・技能】（小2段階）		・身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。【思考力・判断力・表現力】（小2段階）				
自立活動としての内容	・身近な言葉の持つ音やリズム、形に触れ、慣れ親しむことで、言葉の音と形をセットでイメージすること。【健康の保持、心理的な安定】		・身近な人の話や読み聞かせに応じ、注目したり、模倣したり、表情や身振り、簡単な言葉等で表現したりすること。【人間関係の形成、身体の動き、コミュニケーション】		・身近な人の話や読み聞かせに興味を示し、自分の思いを相手に伝えようとする。【環境の把握、コミュニケーション】		
生徒の実態	・平仮名、片仮名の読み書きは、なぞり書きができる生徒、慣れ親しんだ言葉は聞いて分かる生徒など実態差があるグループ。言葉の音と形と意味を、セットで理解することは難しい。		・簡単な口頭による指示を聞いて反応することができる。・意思表示は難しく、感情表現で表すことはできる。		・集中力が途切れやすかったり、興味に向くまで時間を要することが多かったりして、集中して学習にじっくり取り組むことが難しい場合が多い。		
単元の目標	・教師の話や読み聞かせの言葉を意識して聞いたり、映像に興味を示すことができる。		・言葉の形と音をマッピングさせることができる。・簡単な指示に反応したり、質問に答えることができる。		・教師の話や読み聞かせに興味をもって聞いたり、反応を示すことができる。		
支援の手立て	・教師の話に注目できるように、はっきり・ゆっくり話したり、映像を指し示しながら伝える。【ヒト】		・個の実態に応じた回答の仕方ができるように、分かりやすい視覚教材やマッピング教材を提示したり、プリントを準備する。【モノ】		・学習に集中できるようにパーテーションなどを用いて、不要・視覚刺激を減らす。【コト】 ・生徒が関心をもてるように、表情良く話したり、イラストや音楽を使った教材を準備したりする。【ヒト・モノ】		
	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性		
評価の観点	・教師や映像の方に体を向けて、見たり聞いたりすることができたか。 ・何らかのリアクションを示すことができたか。		・言葉の形に興味をもち、音とのマッピングに反応することができたか。 ・質問に反応することができたか。		・教師の話や読み聞かせに反応し、自発的に聞いたり表現することができたか。		
評価	○教師やTVの映像の方を見て、集中して話を聞くことができた。 □教師の呼びかけや促しに反応することが難しい時もあった。		○ひらがなのマッピングに興味をもち、自ら考えたり、模倣したりして反応することができた。		○絵本や映像に興味をもって見ることで、教師の話を聞いてリアクションを示す場面が多かった。 ○マッピングでは、友達の実行を見て、自分から動くことができた。 ○楽しそうに取り組んでいるように見えた。		

※ 評価における成果の記載については以下の記号を使用する。
○：自主的・自立的に行動したとき、□：注意喚起を要したとき、△：行動の指示を要したとき

【図21】授業づくりシート①単元計画シート

令和5年度 教科版授業づくりシート② 授業記録シート

対象	中学	部	2	年	5	名	指導者	松倉沙織、菅原夕貴、千葉江美子、永山由香		
教科名	自立活動		使用教材	絵本、TV、プリント等		期日	2023/12/5、14	火、木曜日	2校時	
単元名	言葉に触れ、言葉の良さを感じよう									

本時の活動			
時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点（手立て）	備考（教材・教具など）
9:40	1 あいさつ	・個々が席に着いたら当番が挨拶をするよう促す。【ヒト】	絵本 TV、タブレットPC マッチング教材 プリント
9:42	2 読み聞かせを聞こう	・教師の話や読み聞かせに集中できるように、体の向きを調整したり、指でなぞりながら読み聞かせをしたりする。【ヒト】	
9:55	3 ひらがなを知ろう	・画面に集中できるように声掛けし、一緒に楽しむ姿を見せる。【ヒト】	
10:05	4 マッチングしよう	・分かりやすい教材を準備し、簡単な文字や言葉で興味を向かせる。【モノ】	
10:15	5 書いてみよう、感じよう	・個々の実態に沿ったプリント・教材を準備し、集中できる環境を整える。【コト、モノ】	
10:25	6 あいさつ	・当番が挨拶するよう促す。【ヒト】	

本時の評価			
本時の目標	評価の観点	支援の手立て	成果（○、□、△）と課題（●）
知識・技能 ・教師の話や読み聞かせの言葉を落ち着いて聞くことができる。	知識・技能 ・教師の方を見たり、体を向けて聞くことができたか。	・教師の話に注目できるように、はっきり・ゆっくり話したり、どこを読んでいるかを指し示しながら伝える。【ヒト】 ・机の並びをおうぎ形にし、教師の方に注目しやすい配置にした。【コト】	○教師の方や映像に注目して見たり聞いたりすることができた。 □教師の呼びかけや促しに反応できる時とできない時があった。 ●生徒の様子を観察しながら、ゆっくり話したり、注目させるような言動を行うことが難しかった。
思考力・判断力・表現力 ・言葉の形と音を見聞きすることができる。 ・簡単な質問に反応することができる。	思考力・判断力・表現力 ・言葉の形や音に興味をもち、反応することができたか。	・個々の実態に応じた回答の仕方ができるように、分かりやすい視覚教材やマッチング教材を提示したり、プリントを準備する。【モノ】	○ひらがなのマッチングに興味をもち、自ら考えたり、模倣したりして反応することができた。 ○個々の実態に応じた回答を促すことで、生徒が達成感を感じることができた。 ●文字単体だけでなく、言葉と絵のマッチングにも取り組んでいきたい。
学びに向かう力・人間性 ・教師の話や読み聞かせに興味を示し、表すことができる。	主体性 ・教師の話や読み聞かせに反応し、何らかのリアクションを示すことができたか。	・学習に集中できるようにバージョンなどを用いて、不要な視覚刺激を隠す。【コト】 ・生徒が関心をもてるように、表情豊く話したり、イラストや音楽を使った教材を準備したりする。【ヒト、モノ】	○絵本や映像に興味をもって見ることで、教師の話や聞いてリアクションを示す場面が多かった。 ○マッチングでは、友達の様子を見て、自分から進んで聞く様子が見られた。 ○楽しそうに取り組む様子が見られた。 ●映像の場面で、一時停止し、ペンでなぞり書きさせたり、質問したりできれば良かった。
その他	その他		

【図 22】授業づくりシート②授業記録シート

イ 学部研究会での協議・追加意見の内容

（成果）

（主体的な学びを引き出す手立ての工夫）

- ・読み聞かせ、平仮名のマッチング、動画とも生徒たちは興味をもち、意欲的に学習に取り組んでいた。（平仮名のマッチングはどの生徒も良くできており、平仮名のマッチング、動画ともほとんどの生徒が座って学習し、ホワイトボードの平仮名と自分の取ったカードを見比べることができた。）

（対話的（協働的）な学びを引き出す手立ての工夫）

- ・集団での学習は初めてだが、どの生徒も意欲的に取り組んでいる。国語としての能力差は大きいですが、集団の雰囲気や友だちの動き等から刺激し合い、主体的な動き（活動）を引き出せる内容だった。より効果的な授業づくりを目指して欲しい。

（課題・提案された改善策）

- 個々の実態に沿った教材の工夫が不十分であった。→◎絵本の大きさやカードの見やすさ、持ちやすさを個々の生徒の実態に合わせて工夫・変更する。
- 集団での学習では、自分の意志や気持ちを表現することが難しいのではないかと。→◎生徒同士の関わりを多くし、学びの相乗効果を高める。

ウ 授業改善の内容と評価（生徒の変容の様子）、協議の結果（今後の方向性）

a①読み聞かせの絵本の大きさを拡大したところ、生徒の視線が話し手の方に向くようになり、集中力が高まった。②マッチングカードの絵を絵本と同じものに統一したところ、平仮名・絵・言葉をセットで繰り返し学習できるようになった。③カードマッチングの際に使用する補助具を肢体不自由のある生徒が握りやすいよう改善したところ、スムーズに手で握り教師と共にカードの取り外しができるようになった。→◎**今後も改善策①～③に継続して取り組む。**

b①生徒同士の関わりを多くもてるよう TT 間で連携し、教師の柔軟な言葉掛けに努めたところ、予想以上に生徒の反応や言動が得られ、生徒同士のふれあいや活動の幅が広がった。→◎**今後も改善策に継続して取り組む。**

②ICT 機器（電子黒板）を活用して生徒の興味や動きのある活動、反応を引き出すことを予定していたが、時間が取れず、未実施。→◎**今後改善策に取り組む。**

V 研究のまとめ

今年度、中学部では学習指導要領と支援学校用教科書を基本とし、資質・能力の三つの柱の育成と主体的に学びに向かう力の育成を目指して教科の授業づくりに取り組んできた。

以下は1年次の成果と2年次に向けた課題をまとめる。

1 成果

（1）指導内容一覧表、指導内容・単元対応表、年間指導計画の作成について

国語☆☆☆☆の教科書の内容と学習指導要領の国語（中学部一段階）の内容が示された「指導内容一覧表」「指導内容・単元対応表」の作成と、国語☆☆☆☆の教科書の内容と学習指導要領の国語（中学部一段階）の内容とが対応した年間指導計画の作成により、学習指導要領に定められた中学部国語科の目標や内容について共通理解がなされ、年間や単元、個々の授業を組み立てるための基礎が形づくられた。さらに、「指導内容・単元対応表」と「年間指導計画」については、指導を実施した単元や指導内容について字体を変えたり、色付けし、実施記録としても活用できるようにしたため、中学部3年間で指導内容を網羅する仕組み・手立てとして役立てられると考える。

（2）授業実践と PDCA サイクルによる授業改善の取組について

①教科版授業づくりシートの作成と活用

授業づくりシートの生徒の実態、指導目標、内容、評価の記入欄を、育成を目指す資質・能力の三つの柱（3観点）と対応させたことにより、三つの柱それぞれの目標設定やそれにせまるための指導の手立ての工夫による授業づくりが可能になった。また、このことが「生涯にわたって学び、成長しようとする力」を支える資質・能力を高める授業づくりや授業実践につながられたと考える。

②主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践の取組と成果について

全体研究テーマにある「生涯にわたって学び、成長しようとする力」につながると考える「主体的に学びに向かう力」を育むことを目指し、いくつかの実践で「主体的・対話的で深い学び」

を意識した取組が行われ、学部研究会での話し合いや追加意見において「生徒がお互いに学び合いながら、学習活動に興味をもち主体的に取り組むことができた」との成果が確認できた。

③学部研究会での協議（実践検討会）による授業改善の取組について

各実践終了後、学部研究会における協議や追加意見アンケートにおいて成果や課題、改善策について様々な意見が出され、授業改善に活かされた。すべての授業実践・授業改善が終了した12月の学部研究会では、学年ごとのグループに分かれ、各授業者が取り組んだ授業改善の内容や評価、生徒の変容の様子について多くの成果が報告された。また、その後改善策の是非や今後の取り扱い（方向性）について協議されたことで、次の授業実践につなげることができたと捉える。

2 課題

（1）数学版指導内容対応表や授業づくりシート、年間指導計画等の作成について

今年度は、研究の対象を国語に絞り、指導内容対・単元対応表や特別支援学校用教科書や学習指導要領に対応した授業づくりシート、年間指導計画等を作成・活用し、研究のまとめに書き示した通りの成果を得た。これを踏まえ、来年度は数学についても同様に指導内容・単元対応表や授業づくりシート、年間指導計画等について検討し、よりよいものを作成していきたい。

（2）「学びに向かう力・人間性」についての目標設定と評価の取組の強化について

全体研究テーマにある「生涯にわたって学び、成長しようとする力」につながると考える「主体的に学びに向かう力」を育む授業づくりに取り組むうえで、育成を目指す資質・能力の三つの柱のうち、「学びに向かう力・人間性」の目標設定や評価の取組が不十分であったと捉える。次年度は、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりと合わせ、この取組を強化し、研究に取り組んでいきたい。（「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりでは、「深い学び」につながる単元や授業計画についてさらに研究を深めていきたい。）

（3）実践検討会の協議の方法の検討について

今年度の実践検討会は、授業者から出された授業づくりの課題や指導上の悩み、改善策等について学部全体で広く協議を行った。研究会後に考えた意見や感想については、「追加意見」のアンケート用紙に記入し、研究部で取りまとめた。実践検討会と追加意見で出された意見は全員に配布し、授業改善に活かされた。しかし、この方法では、①全員からの意見が集められず、意見を出した人の意見のみで研究が進んでしまう。②話し合うポイントが広く、意見が多岐にわたり、焦点を絞る必要があると考えた。このため次年度は、協議の柱を、ア資質・能力を高める指導の手立て・授業づくりの方法について、イ主体的に学びに向かう力を育む指導の手立て・授業づくりの方法について、ウその他、などのように絞り、事前に具体的な協議の柱を決め、全体研究会と同じ方法（少人数グループでのワークショップ形式）で実践検討会を行っていきたいと考える。

【参考・引用文献】

- 1) 学校教育法施行規則
- 2) 文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）、2019

- 3) 文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）、2019
- 4) 熊本大学附属特別支援学校：指導内容確認表、2020
<https://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~futoku/ict2.html>
- 5) 文部科学省：国語☆☆☆☆ 特別支援学校中学部知的障害者用、2021
- 6) 文部科学省：国語☆☆☆☆ 国語☆☆☆☆教科書解説、2021
- 7) 朝日滋也：「星（☆）本」を読み解き、授業計画づくりにどう生かすか、特別支援教育の実践情報、明治図書、2022
- 8) 新井英靖：特別支援学校新学習指導要領を読み解く「各教科」「自立活動」の授業づくり、明治図書、2019